

AMUSEMENT
SQUARE
stage

「テアトロ・ベア」という集団について、その全貌はまだ明かされていない。先月号のこのページの片隅に小さく、その名前が初めて明かされた。

思い返せば、事の始まりは春の終わりの頃だった。いつものように、スペース・ベンにノコノコ足を運んだ私に、「東京に行かないか?」と、切り出したベンさん。「トウキョウ?」

来年の2月、東京駒場のアグラ劇場で、毎年開催されている『大世紀末演劇祭』にプロデュース集団で参加しようという話に、きつとその時の私は、鳩が豆鉄砲を食らったような顔をしていたに違いない。

でも、話の内容にも驚いたが、「あなたの脚本で、いきたくないんだけど」と言う言葉が実は一番の衝撃だった。

「私の脚本で、東京公演?」これは、ちょっと大変なコトだと、思う間もなく、私の首は縦に振られていた。

いつもそつた。心で感じる速度に、頭の考える速度は追いつけない。自分の力量状況、環境、諸々の条件。大変だろう。つらいだろう。想像するだけでメマイがする。なのに、首を横に振って「また、次の機会に」と、言えない私、言わない私。

それは、「次の機会に」という言葉の『次』ということの保証が有り得ないと、思うからだ。

今を見送って、次を待つ。でも、いま見送ってしまったモノが最終

かもしれないのだ。

特に、最近、強くそれを思う。

だから私は、自分の集団をもちながらも、好き勝手にやらせてもらっている。メンバーからしてみれば、たまったもんでないだろうが、一個人として思うこともあるのだ。

集団とプロデュース。その違いによるメリットは、いろいろある。いつも、信頼できる気心の知れたメンバーの中で作品をつくってきた。言葉にしくなくても通じるこ

とが有る。それが、集団のメリットのひとつだと感じる。ところが、プロデュース集団では、それを一からつくらなければならぬ。だが、だからこそ、ともすれば集団意識で陥りやすいアナアの視線が通用しない。厳しい視線で舞台をつくることが可能になる。それが、プロデュース集団のメリットのひとつだと感じる。

集団とプロデュース、どちらがいいとも言えない。それは、やる側の意識の問題なのだから。

だから、『次』を待ち切れない私は、今、このプロデュース集団に参加を決めた。それは、今までやってきた集団ということをないがしろにするというわけではない。二足も三足も草鞋を履くほど器用じゃないのは百も承知だが、全部をやりたいたけなのだ。

そんなこんなでプロデュース集団「テアトロ・ベア」による東京公演への活動を始める。

その構成メンバーは、様々である。スペース・ベン主催の田中勉

氏が、プロデュース・出演。演

出・平霞健悦。脚本・長尾広海。そして出演者に山田景子と、青森の劇団雪姫から佐々木真理子。

お互いに、互いの舞台などは観たことはあっても、一緒に舞台をつくるのは初めてだ。

その作風、表現手法、どれをとっても似ていないし、同じでもない。それぞれの個性が、どんな具合に舞台に出るのだろうか。

十月初め、青森から来八した佐々木さんを交えて初の顔合わせ。皆やつぱり、ネコをかぶっているようだ。

この微妙な違和感が、どういうモノに化けるのか。

二月の『大世紀末演劇祭』には、日本全国から参加が有る。毎年、参加しているような集団もあるらしい、我々は、もちろん今回初参加。集団としても初公演なのだから、期待も不安も爆発寸前。

目に見えないプレッシャーから、一時期、一文字も書けなくなってきた。正直にいえば、書きたくなくなっていたのかもしれない。けれど、まだ終われない。終わりにできない。

八戸を離れていく人が多い中で、ここから何かを発信しようとして

いる人達がいる。そういう人達の

情熱が、時として思いがけない方向から吹き上がるこがある。

その熱風は、追い風となり向かい風となり、立ち止まっている人の背を押す。くすぶっている人に火を付ける。

人と人が、コミュニケーションを取ろうとするとき、つかえるものは身体と言葉。十思う内のどれだけを、正確に伝えることができるのだろうか。また、正確に受け取ることができるのだろうか。

人はそのプライドや気持ちの大事さから、他人と衝突してしまう。けれど、その衝突から生まれるモノは、悪いものばかりじゃない。衝突を恐れているのは、何もつけない。怯えながらも、ぶつかって行くしかないのだ。

作品のタイトルは「パズルータダシサの限界」。脚本の段階では、オムニバス形式で、幾偏かの物語を綴っている。これが、演出の段階で、どう変わるかもとても楽しみだ。そして、観客にどう受け入れられるかも。

これからの三か月、無事に過ごせるのか? 楽しみなような、怖いような..

テアトロ・ベア始動

〈文〉イージーシアター我楽多屋代表・長尾広海

11月のFriday Amusement Negative Shop
番組変更の場合もありますので、内容についてはデーリー東北の「あすのメモ」
「きょうのメモ」欄でご確認下さい。

■6日・13日・20日・27日
「パズルータダシサの限界」 時間/午後8時~ 料金/500円
●プロデュース: 田中勉 ●脚本: 長尾広海 ●演出: 平霞健悦
●出演: 山田景子、佐々木真理子、宮崎睦子、田中勉

昭和を生きた芸者、貞菊。小中野新地を舞台に一人の女の半生を描く、榎谷渾身の作...
小中野新地夢物語 こなかのしんちゆめものがたり
お待たせしました。やませが贈る、2年ぶりの新作本公演。
●作: 榎谷伸夫 演出: 加藤健太郎 出演: 大館登美子 他 ●

日 時/11月13日(金)・14日(土) 午後6時開場/午後6時30分開演 (両日とも)
場 所/八戸市公民館ホール
入場料/一般 2,000円(当日200円増) 学生 1,000円(当日200円増)
☎44-8893 劇団やませ稽古場 (夜のみ)

※詳しくはP29の「PICK UP HALL EVENTGUIDE」を見て下さい。